

港北区民生委員児童委員協議会広報紙

第26号



ほほえみ

発行 横浜市港北区 民生委員協議会
児童委員
横浜市港北区大豆戸町26-1
電話 045(540)2339
FAX 045(540)2368
発行責任者 会長 宮田光明

こんにちは民生委員・児童委員です

小さな気づき 寄り添う心 頼れる地域の「つなぎ役」

子どもの事で

赤ちゃん会や子育てサロンなどにかかわっています。また子育て不安や、いじめ、登校拒否、児童虐待など気軽にご相談ください。



障害のある方へ

お困りのこと、援助を必要とすることはありますか。地域の支援を行政と連携して行っています。

高齢者の方へ

ひとり暮らしの方、高齢者世帯の方、介護保険サービスを受けたいと考えている方、心配事や相談事、なんでも結構です。気軽にご相談ください。

その他

母子福祉や配偶者からの暴力(DV)など、困ったことがあれば、深刻な状況になる前にまずご連絡ください。

生活に困った時

困窮の実情に応じ、生活福祉資金などの公的貸付制度や生活保護についてご案内します。



民生委員・児童委員は
守秘義務が課せられています。
プライバシーは守ります。

民生委員・児童委員は
相談に応じ、地域の関係機関等との
つなぎ役になります。
わたしたちに気軽に声をかけてください。

**民生委員・児童委員は、住民の皆様と行政機関との
つなぎ役としてまちの福祉のために活動しています。**

港北区役所福祉保健課運営企画係で地域の民生委員・児童委員、主任児童委員を紹介しています。
ご相談の内容によっては、他の専門機関を紹介します。

港北区役所福祉保健課運営企画係

電話 540-2339

FAX 540-2368

地区からの紹介

移動動物園の開催

日吉宮前地区 足立 弘

まだ寒さが残る3月、日吉宮前地区の熊野神社の一角を借りて移動動物園を開催しました。今期民生委員・児童委員を引き受け、全員で行った最初の活動です。新任ということで受付を担当しました。開始すると参加者の数がだんだん増え、会場は溢れんばかりの人になり戸惑いも感じました。経験豊かな先輩方が先を読み、てきぱきと行動していたのには感心するばかりでした。中に



は、かなり遠方からの親子が参加していました。自転車に子どもを乗せて遠くから来るのは大変だと思いますが、お母さんたちは子どもが楽しめると思うと苦ではないのでしょう。



全員が動物に触れあうことができるよう時間を区切り、子どもたちを飽きさせないように工夫し、ヨーヨーや紙芝居の場所を設営して子どもたちと接しました。参加者が予想より多かったのは嬉しい誤算でした。民生委員・児童委員になって高齢者・障害者の方への見守りが多い中、親子の楽しむ場所にも接して活動していきたいと思います。

情報提供の難しさ

網島西地区 八木 俊子

民生委員・児童委員になって8年目になります。初めは何をして良いのか分かりませんでしたが、今は様々な活動に参加しています。

先日、一人暮らし高齢者の見守り活動で、90歳を過ぎている方を訪問しました。その方は、ご自分の体のことを考え2、3日おきに野菜ジュースを作るため野菜の買い出しに行かれます。住まいが坂の上にあるので行きはよいのですが、帰りはきつい坂道を上ってこないといけません。その大変そうな姿を何回か目にしていたので、何かできないかと考え地域ケアプラザに相談しました。不定期で買物の手伝いをしてくれるサービスがあることを聞き、その方に伝え、詳しくは地域ケアプラザの方に尋ねるよう勧めました。しかし、その方

の息子さんにはお母様に何とか歩いていただきたいという思いもあってサービスを見送られました。また、地域ケアプラザをあまり知らなかったようでした。私は今もその方に時々声をかけて、見守りを続けています。

今後、地域ケアプラザに親しみを持って利用していただけるように、情報を提供していくつもりです。



民生委員・児童委員として

大豆戸地区 福崎 克代



私が任命された平成3年ごろは、地区の定例会以外で先輩方とお話する機会は少なく、与えられたことだけをして過ごしていました。

当時は区の保健師さんたちと接することが多く、一緒に高齢者・障害者の

方々とのふれあいの場があり、依頼されればボランティアをしながら交流を深めていました。介護保険制度が始まってからは、ほとんどお会いすることがなくなったのが寂しいです。

ほとんどの民生委員・児童委員が年下となった今、皆が何でも話し合える民児協*。「仕事は大変そうだけど、参加してお仲間に会えるのが楽し

み]と言われる民児協*になってくれるようにと、会長といつも願っています。

(※民児協…民生委員児童委員協議会の略称)

近くに大豆戸地域ケアプラザがあるので、地域の方には「何かあったらケアプラザに相談してくださいね」と。また認知症予防体操スリーAの普及に取り組み、その輪が広がりつつあるのが嬉しいです。

新しいことに自ら手を挙げて参加してくれる若手民生委員・児童委員。この先、頭が痛くなる問題を抱えるかも…でも、仲間と一緒にならきっと大丈夫。Yes, we can.



盲導犬を引退したワンちゃんたちと一緒にスリーA体操を楽しむ「かもめのつどい」

日本赤十字社を知る

篠原南地区 和田 恵美子

昨年11月22日に、篠原地区21名と篠原南地区15名の民生委員児童委員協議会合同研修で、日本赤十字社の活動を知るため、かながわ赤十字情報プラザ(中区山下町)を見学しました。神奈川県には赤十字施設7か所、診療所3か所、献血ルーム8か所があります。

赤十字社では、ボランティアさんが多くの活動を行っています。例えば、目が不自由な方のために、教科書を点字に直す作業もその一つです。ま



た、15の医療チームが国内で地震、台風、洪水等いざという時のために常に訓練をしていると聞き、頭が下がる思いでした。

案内役のボランティアさんの丁寧な説明のおかげで、赤十字社の仕組みが多少なりとも理解でき、赤十字のマークが国により異なることも、興味深く聞きました。これらの活動は、多くの皆様の寄付により支えられているそうです。

2時間ほどの説明の中で、若い人たちの献血への積極的な協力の必要性を再認識しました。「明日かもしれない災害」に向けて備蓄の見直し等あらためて確認すべき点を学び、とても中身の濃い研修でした。



五感をつかう…

新吉田地区 鈴木 順子



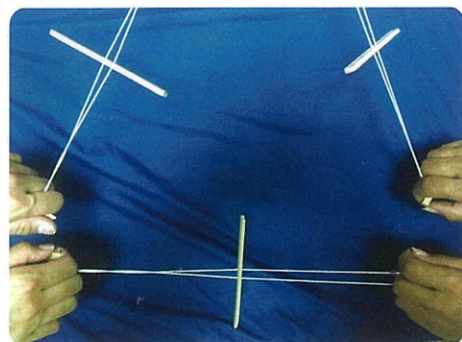
2月24日、港北区社会福祉協議会主催、子育てや高齢者支援に関わる人向けの「お役立ちボランティア講座」に参加しました。盛りだくさんの教材の中、多羅葉(ハガキの木)の葉と竹細工のブンブンゴマの

新しい遊び方が興味深いものでした。

早速、3月1日に町内会の高齢者茶話会で披露しました。多羅葉の葉がハガキの起源になった下りは、諸説までご存知の方が多かったのですが、実際に見て触れて字を書くまでの経験はないと

いう方がほとんどでした。

次に竹細工のブンブンゴマです。講座で作ったコマを使い、スタッフがモデルとなり一人遊びから二人対面型、三人、四人と輪になって回します。人数が増えると呼吸を合わせるのに戸惑い、どうにか成功すると会場に笑い拍手が湧き起りました。



地域の子育て支援「よしだっこ」のお手伝いをすることもあります。ここでも主任児童委員やスタッフのアイデアに「目からウロコ」の連続です。講座の時に「五感は使うためにある」という講師の一言を実感し、日々を過ごしています。

特集

日吉5地区合同研修会

日吉5地区(日吉、日吉宮前、箕輪、日吉本町、下田)の民生委員・児童委員、主任児童委員は平成14年から、子どもに関するいろいろなことを知るため、主任児童委員が研修内容を考えて合同で研修しています。今までに、「中学生の現状」、「見た目には分かりにくい発達障がいについて」、「児童虐待の理解と対応」などをテーマとした研修を行ってきました。

今回は7月12日に日吉地区センターで、明星大学教育学部教授の星山^{ほしやま}麻木^{あさぎ}先生を講師にお招きして、「障がいについて」をテーマに講演いただきました。

先生は「障がいはその子の持つ特性と捉えてい



る。『レインボーちゃん』と言って持っている色がそれぞれ違っているだけで、私たちもみんな色を持っている。

『みんなちがってみんないい』自分の子どもが違っては駄目。普通でないと不安になってしまう。みんなと同じにできないのはおかしい。と厳しく勉強などを押しつける教育虐待が起きている」と話されました。

多数派が必ず正しい、少数派が悪いとは限らない、人との違いを強みにする。否定するより肯定する、自分を大切にする。など、とても考えさせられた研修でした。

ほほえみ編集委員が 取材に行ってきました！

高田地区

子どもたちが未来に希望を持てる地域づくり

3月10日、高田地区で開催された講座「子どもたちが未来に希望を持てる地域づくり」の取材に行ってきました。この講座は、子どもをとりまく現状を知り、子ども食堂等の子どもを支える仕組みをつくることを目的として、1月から全5回開催されたものです。

これまでの講座では、沖縄大学の加藤彰彦名誉教授による「子どもをとりまく現状と課題」やスクールソーシャルワーカーによる「子どもの心理」、「家計簿体験から貧困を考えるワークショップ」といった講義のほか、子ども食堂等の見学やグループワークが行われてきました。

当日は20名の参加者が集まって、どのような居場所が子どもたちには必要なのか、理想の居場所を作るためにはどうすればいいのか、といったこ

とが活発に話し合われていました。昨年秋に講座を企画していたころは、参加者が集まるかどうか懸念があったものの、チラシの回覧や声かけによって予想を上回る参加者が集まったそうです。子どもをキーワードに人と人とのつながりが進み、地域の力が高まることが期待できる取材となりました。



新羽地区

学校と地域のつながり

6月27日、新羽小学校において全校児童に民生委員・児童委員、主任児童委員が朝礼で紹介され、授業参観を行うという年に一度の行事を取材に行きました。

朝礼の始まる時間になり、民生委員・児童委員15名と主任児童委員2名が体育館に入りました。校長先生が壇上に立つと、児童全員声を合わせて元気に挨拶することができました。

校長先生が「大切なお話があります。今日は、み

んなを見守ってくれている人たちを紹介します。」と言われ、壇上の民生委員・児童委員たちが、自己紹介方式で氏名、担当地域、どんな所で活動しているかなどを順番に話しました。そして、「地域で会ったら声をかけて下さいね。よろしくお願いします。」と言うと、児童たちの中から自然に「よろしくお祈いします。」という元気な声が返ってきました。

2時限目から、全校の授業参観が始まり、低学年では挙手する元気な声と姿が見られ、高学年においては補助の先生がついて学習に対する手厚さを感じました。休み時間には多くの児童から「こんにちは」と声をかけられ、取材に行っている私たちも嬉しくなるひと時でした。

学校が積極的に私たちを招き入れ、子どもたちとの距離を縮めるチャンスを与えて下さっていることに感謝し、多くの地区にも広めていけたらと思いました。



主任児童委員の活動



民生委員・児童委員 全員研修を受けて

「子どもや子育て家庭への支援について考える」をテーマとして、現役の民生委員・児童委員でもある桜美林大学の大溝茂先生に講演いただきました。

先生は「創設100周年を迎えた民生委員制度は、『歴史の峠にある』と言える。過酷な社会生活の中での問題は、昔のような経済的貧困だけではなく、自立に必要な権利が守られていない事である。それは、子どもが育つ日常生活の中で、人としての基盤となる『成長・発達・成熟』に大きな影響を与えてしまっている。

地域住民個々の課題や問題は、今までの『自助・共助・公助』だけではなく、ささえあい、助けあ

い、分かち合える『互助』が必要であり、新たな支援システムとして『地域共生社会』の実現に向けて、取り組んでいかなければならない。」と話されました。

それぞれの生活の営みを通して、地域の方々と心から向き合うことをもう一度再確認しながら、活動していこうと強く感じました。



編集後記

民生委員・児童委員の思い、各地区の特色ある活動を掲載しました。原稿をお寄せいただいた皆様、ありがとうございました。

表紙には港北区キャラクター「港北区ミズキー」にラグビー選手として登場してもらいました。(T・S)。

編集委員 (◎委員長、◇顧問)

- ◎蛭野 美津子 (日吉)・◇永野 和子 (大豆戸)
- 井上 弘子 (日吉宮前)・磯貝 淑子 (菊名)
- 椎山 妙子 (師岡)・熊倉 康子 (篠原南)
- 矢野 泰秀 (高田)・米山 健二 (新羽)
- 神丸 悦子 (主任児童委員、日吉本町)